

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月7日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①単位制の利点をいかして、適切な教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組む。 ②主体的・対話的で深い学びや探究活動が進むよう組織的な授業改善と研究開発に取り組む。	①新旧それぞれの教育課程に基づく進路選択のための履修指導を行う。 ①新旧それぞれの指導計画にもとづいた授業づくりをめざす。 ②アクティブラーニング型授業に本校の特色である21世紀型リーダーシップによる教育を結び付け、主体的・対話的で深い学びをさらに推進していく。	①選択科目の予備調査や選択科目説明会とともに三者面談などを通じて生徒・保護者と情報共有を図りながら、個々の生徒の進路にあった履修指導を行う。教科内で指導計画の検証を行う。 ②アクティブラーニング型授業、21世紀型リーダーシップについて、教員一人ひとりが様々な場面で活用できるように、教員研修の実施や併せて、生徒対象のリーダーシップ研修の実施も計画する。	①個々の生徒の進路志望に対応した科目選択ができたか。当初の指導計画の指導と評価は適切だったか。 ②組織的な取組ができるよう教員、生徒対象に研修等を行い、課題や改善策を明確にしたか。 ②授業観察のほか、研修を通じた教員間の学び合いや授業改善に向けた協議などがなされていたか。授業見学や公開授業等の方策を検証、実現したか。	①科目選択においては、年次とカリキュラムGとで連携し、個々の履修指導を行った。変更申出に対しても個々の進路を踏まえて対応した。 ②生徒の思考力の伸長をテーマに授業観察や研究授業及び協議を実施しし、授業改善に生かすことができた。 ②リーダーシップ教育は昨年度に引き続き外部機関の協力を得ながら進め、「自分で考えて行動する力」を育成し、自身のキャリア形成に結び付くよう取組を進めた。	①夏休み明けの選択科目変更申し出が例年以上にあったことから、来年度に向けて選択科目希望調査の時期を検討する。 ②育てたい生徒像の共通理解やカリキュラム・マネジメントの実践においては課題が残る。継続してテーマ設定や実施方法を検討する。 ②これまでに蓄積されてきたリーダーシップ教育等を、より実効性のある形で科の教育活動にも生かせるよう、授業研究などと組合せて実施していく。	・単位制の特徴や利点が中学生や外部の人にはわかりにくいのではないか。学年制と比較して生徒がやりたいことを追求できるというイメージがあり、科目選択時等、生徒へのフォローは必要だと思う。藤沢清流としてのよさを示せるとよい。 ・リーダーシップ教育が柱のようだが、日々の授業において、組織的な授業改善の取組を進めることはとてもよい。継続して実施し、研究授業の成果なども検証してほしい。	①担任とカリキュラムGが連携し、個々の履修指導を行い、選択科目希望調査後の変更の申し出にも適切に対応できた。申出件数が例年より多く、生徒や保護者が十分に選択科目を検討する時間が必要である。 ①「単位制の利点」についても検討し、新校への移行を視野に入れた科目の精選をしていくことも必要である。 ②組織的な授業改善として、研究授業や協議を通して、教員間の学び合いの機会を設定した。教科横断的な視点や社会に開かれた学びを進めていく方策を引き続き検討していく。リーダーシップ教育、探究的な学習では、昨年度までの蓄積に新たな外部連携等も取り入れ、生徒にとって実効性のある内容となるよう工夫した。	①選択科目調査は生徒保護者がじっくり考えられるよう時期や方法の見直しとともに、進路と選択科目の不一致を招かない履修指導を行う。 ①単位制の利点を生かすカリキュラムとは何かを検証するとともに、新校を見据えた検証が必要となり、深沢高校と協議しながら進めていく。 ②授業研究において、カリキュラム・マネジメントの考え方を実践に繋げる方策や推進するための組織づくりなどを検討する。 ②多様なツールや外部資源を取り入れ、活用しているが、導入後の生徒の実態の変化を追う等、効果の検証を行い、内容を精査しながら実施していく。
2 生徒指導・ 支援	①部活動の充実を学校全体で支え、部活動を通じて豊かな人間性や社会性を培う。 ②組織的な生徒指導・支援体制を充実させ、生徒一人ひとりにきめ細かく対応する。	①活発に活動できるようなインフラの整備と生徒の自主的な行事運営の支援を図る。 ②職員の共通理解のもと、組織的な生徒指導・支援体制の充実を図り、生徒の基本的な生活習慣の確立や問題行動の未然防止に取り組む。	①生徒会予算の執行を計画的に行い、部活動環境の整備に努めるとともに、行事等で生徒が主体となってマネジメントをするための支援を行う。また、アンケート等を活用し、生徒の意見や感想などの情報共有を図る。 ②定期的な服装・頭髪指導、交通安全指導を組織的に行う。また、巡回指導を毎日行い、問題行動等の未然防止に努める	①活発な部活動の目標として入部率が生徒の85%以上となったか。行事終了後に生徒の達成感が、90%以上であるか。 ②服装・頭髪の指導件数が減少したか。交通事故の減少や生徒の交通マナーの向上が図られたか。	①年度当初入部率が約65%と低調だった。行事については、陸上競技大会、文化祭ともに委員の生徒を中心に教職員とも協力し、実施した。 ②定期的に服装・頭髪指導を組織的に行った。服装・頭髪の指導件数、交通事故報告件数ともに減少したが、盗難やSNS投稿・迷惑行為等に関する問題行動が増加した。	②2年次からの入部勧誘や文化部の活性化が課題である。行事は生徒の主体的な参加が見られ、外部への公開も実現できた。 ②盗難については、警察との連携、防犯カメラの増設、生徒の防犯意識の向上を図り、未然防止の徹底に努める。また、巡回指導の強化徹底、生徒情報の共有により、安心安全な学校生活を目指す。	・約75%の入部率、残り25%の生徒の様子も知りたい。 ・行事实施への満足度については概ね目標を達成できたと捉えてよい。 ・SSWが配置されたことで、学校生活以外の面でもサポートしやすくなると思う。利用状況については、7人ほどの枠底に努める。また、巡回指導の強化徹底、生徒情報の共有により、安心安全な学校生活を目指す。	①1年次入学時で入部率70%台であった。フェスタ終了後のアンケート結果では満足度も高く、概ね目標を達成できた。 ②服装・頭髪指導件数、交通事故件数は減少しているが、盗難やSNS投稿・迷惑行為等に関する問題行動が増えた。また、問題行動や迷惑行為の背景には、発達面での課題や精神面での不安定さ等、支援を要する生徒も増えており、SCやSSWとの連携が図れるよう、職員間の体制の構築を進めていく必要がある。	①年度当初の情宣や体験を効果的に行う。また、生徒の自主的な活動の場を増やしていく。 ②毎日毎時間行う巡回指導の強化と徹底を図り、そこでの生徒情報の共有を教職員間で行い、安全・安心な学校生活を目指す。盗難については、警察との連携、防犯カメラの増設、生徒の防犯意識の向上を図り、未然防止の徹底に努める。教育相談の面では、かながわサポートドックが導入され、その活用や支援、生徒のアウトリーチの方法や校内体制の構築を今後とも検討していく必要がある
3 進路指導・ 支援	①キャリア教育を通じて自らの課題に前向きに取り組む生徒の育成を図る。	①総合的な探究の時間と各教科・科目の授業を繋げ、生徒の深い学びを促す。また、総合的な探究の時間を3年間の枠組	①各教科・科目の授業担当教員が、日頃の授業で探究的な学びを意識して指導にあたる。総合的な探究の時間とLHRの3年間の指導計画を見直し、改善を図る。	①ポートフォリオの活用方法や総合的な探究の指導計画の見直し等を、生徒の実情やニーズを踏まえ検証、実践することができたか。また、教科横断的な視点を	①新校で実施するカリキュラム編成を前提に、「総合的な探究の時間」の指導計画の見直しを、リーダーシップ教育を軸に実施した。ポートフォリオについて	①新校での実施を踏まえ、本校のキャリア教育の中核となる「リーダーシップ教育」の位置づけの確認と「シチズンシップ教育」との融合を目指す。	・学習成果発表会では、生徒自身が課題を見出し、それに向かうとする姿勢が見える。また、3年間の成長の様子も見える。3年生の発表は内容もしっかりしていた。	①「総合的な探究の時間」と各教科・科目の授業を繋げ、生徒の深い学びを促すことができた。また、「総合的な探究の時間」を3年間の枠組みで計画的に進めることができた。今後より一層、生徒がこれからの生き方・在り方をポートフォリオの	①ポートフォリオの活用方法や総合的な探究の指導計画の見直し等を、生徒や社会の実情、ニーズを踏まえ検証する。また、教科横断的な視点をもった学習指導ができるよう、学校全体で取り組む体制作りを構築していく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月7日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		②生徒の進路希望実現に向けてきめ細かな支援を組織的に行う。	みで計画的に進める。 生徒がこれからの生き方・在り方をポートフォリオの活用も含めて、主体的に取り組み、個々の進路実現につなげるように指導する。	探究的な学びが上級学校の進学あるいは就職に繋がるようポートフォリオ活用の具体的な方法を指導し、併せてキャリアガイダンスを活用し、生徒の意識啓発に努める。	もった学習指導を実現できたか。	は、学校行事などの折に活用することができた。 ②年次ごとにガイダンス等を行い、進路意識を高めた。多様な入試に向けた指導を職員が協力して行ない、生徒の進路実現を支えた。	②科目選択や日頃の教科学習とキャリア教育との繋がりを意識した学習指導が必要である。	・科目の選択や進路指導等のサポート状況はどうなっているかということを検証しつつ行ってほしい。 ・キャリア教育との連携を図りながら進路実現に向かわせてほしい。	活用も含めて、主体的に取り組み、個々の進路実現に繋がれるように取り組む必要がある。 ②受験においては担任を始め学年を超えた支援を行い、生徒の進路実現に繋げた。	②推薦制度を活用し進学する生徒が多い中、確かな学力の育成には課題が残る。卒業後も実力を発揮できる教科指導等を行うことが求められる。授業改善等にも関連付け、社会に求められる力を意識した授業づくり等に繋げる。
4	地域等との協働	①地域との協働を推進し、地域とともにある学校づくりを進める。 ②地域貢献活動などを通じて、地域と連携した教育活動を推進する。	①学校運営協議会における意見交換等を踏まえ、本校の良さを生かした学校づくりを進めるとともに、本校の魅力について積極的に発信してゆくための方策の充実を図る。 ②三校交流をはじめ近隣の学校との連携や地域防災、地域福祉等と学校における教育活動を結び付け、開かれた学校づくりを進める。	①学校説明会やオープンスクール、部活体験等を通じて、本校の魅力と特色を伝える企画内容を工夫する。 ②三校交流をはじめ近隣の学校と連携し、地域事業などにも参加を促す。また、学習した内容を地域活動や生徒の実生活で生かせるような指導を工夫する。	①学校説明会やオープンスクールを通して本校の魅力を効果的に伝えるよう、広報活動を見直したか。 ②地域の行事等に積極的に関わることができたか。	①学校説明会の案内等ホームページでの更新をこまめに行い、中学生等が本校の情報にアクセスしやすくした。また、学校案内や各種説明会における資料の見直しを行い、わかりやすい説明を心掛けた。 ②三校交流では、ひまわり育成のほか、近隣小学校での本の読み聞かせや書初め、中学校へのリーダーシップの出前授業を実施した。	①学校説明会後のアンケートを活用し、広く中学生等のニーズを調査する方法を検討し、学校説明会等の内容充実を図る。また、新たなキャッチフレーズを作成し、本校への関心を高める効果に繋げた。 ②実施に係る諸条件の変化などもあり、内容の検討は必要となる。交流行事の多くが復活したが、実施方法やより活性化を図るための方策を、組織的に考えていく必要がある。	・単位制の学校というメリット、藤沢清流の特色などが出せるように引き続きお願いしたい。 ・三校交流で小学校や中学校に来てくれたことについて、児童生徒も喜んでいる。 ・あじさい祭りなど、地域行事への参加は、来場者からも好評であり、また、生徒自身も楽しんでくれているように見えた。 ・地域行事への参加も難しい面があるが、参加してみて地域との繋がりを更ににつくってほしい。	①学校説明会、オープンスクール、部活動体験などで、本校の魅力を効果的に広報することができた。また、中学校の学校説明会に出張し、説明を行い、広報活動を効果的にできた。広報の時期、内容、ニーズ等を調査し、検討する必要がある。 ②三校交流、地域貢献活動において、近隣や市の方から協力を得て本校生徒が活動し、いずれも好意的な評価をいただいた。一方で、真の意味で生徒が主体となった地域活動は難しいのが現状である。地域福祉や防災の面では本校の位置づけは大きく、地域の中にあることの意識を伝えていくことを求められる。	①中学校、地域からの本校へのニーズ、意見を収集する機会を作る。 広い視野で、本校のニーズにあわせたキャッチフレーズを策定する。 ②三校交流については、小学校中学校との時期の調整が課題である。早い段階から内容も含め検討する必要がある。 ②三校交流以外の地域行事等への参加要請はあっても、実際の生徒の参加は非常に少ない現状がある。周知の方法や事業母体との関わり方、学校運営協議会等の場の活用方法を検討していく。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の整備に努め、安全、安心で明るい学校づくりを推進する。 ②事故・不祥事防止を徹底する。教員の働き方改革を推進し、前向きに働ける職場づくりに努める。	①学校目標達成に向け、校内の学習環境の整備と衛生管理を行う。 ②事故・不祥事防止に向けた取り組みを行うとともに、情報管理や業務の精査を行い、教員の働き方改革に取り組む。	①教育環境の整備、特にICTの利活用を促進できるような整備を進めるよう努める。 ①校務で活用している情報を整理し、業務の継続性を持たせるとともに、課題を共有し改善する方策を検証する。 ②事故不祥事防止に継続的に取り組む。	①施設設備及び清掃活動等も含め、環境整備に職員生徒で協力して取り組んだか。 ①ICT機器の管理体制を整備し、より活用回数等を増やすことができたか。 ②Teamsの活用、電子データの管理方法を見直し、スムーズな情報共有や業務の引継ぎを可能とし、組織として業務遂行が可能な体制が構築できたか。	①ICT機器をはじめ教育活動に係る施設設備の管理方法の検証や生徒の美化意識向上も視野に入れ、適切な管理運営ができるよう教育環境の整備を行った。 ①トイレ洋式化等、学校生活に必要な環境整備を進めた。 ②対面での会議が持ちにくい環境があり、情報管理や共有、次年度への引継ぎ等を事故防止の観点をもって実施できるようグループ単位等で対応している。	①教育環境整備に対する職員間での共通理解などが必要であり、働きやすい環境と生徒の学びをよりよくする環境整備の双方から機器の整備等を行っていく。 ②働き方改革への意識を自分事として捉え、公務に関わっていく意識づくりが必要である。 ②法令や規則への関心が持てるよう、事故・不祥事防止会議や研修等の実施の仕方や内容の工夫を図っていく。	・高校においてもICT機器の整備等、教育の情報化を推進している。一方で、すべてがデジタル化することが果たしてよいのかどうか、考えてほしい。 ・事故防止等について継続的に取り組むようお願いしたい。 ・働き方改革を実践できるよう、業務分担や内容の精選を行っていった方がよい。引継ぎなども踏まえた働き方を行ってほしい。	①施設設備の使用管理方法などの検討を行い、適切な管理とともに事故防止に向けた意識を職員に深めた。休み時間等の器物の損壊が複数発生しており、清掃指導を含めて、設備や物品の管理についての意識の向上を学校全体で図る必要がある。 ①トイレ様式化、みんなのトイレの設置のほか、老朽化に伴う設備の劣化に対して対応し、環境整備に努めた。 ②校務におけるICT活用は、Teamsファイルの整理等から着手し、効率よく業務を進められる環境整備を行っている。業務量のバランスや業務の継続性、また、前例踏襲ではない取組の方向性など、個々の職員が自分事として業務を捉え、働きやすい職場づくりをしていくことが求められる。	①既存の施設の維持管理や活用方法などを常に検証し、生徒の学習環境や職員の労働環境の整備に努めるとともに、施設の維持管理については、職員にも意識を持たせるよう働きかける。 ②情報管理や共有の方法には課題が残り、今年度着手したことについて、継続して行っていく。 ③グループ業務、部活動顧問の業務等、業務負担のバランスを考慮した分担等を検討し、業務内容の精査等可能な部分から整理していく。産業医の助言なども参考に、業務内容の精選等に取り組む。